

〈環境報告書2020 記事一覧〉

HOME

- 0.1 > 学長メッセージ
- 0.2 > 三重大学環境方針
- 0.3 > Mie University Environmental Strategy
- 0.4 > 三重大学が目指す環境
- 0.5 > SDGsから記事を検索
- 0.6 > 用語解説

1 三重大学の概要

- 1.1 > 基本理念
- 1.2 > 三重大学を創る6つのビジョン
- 1.3 > あゆみ
- ガバナンス
- 1.4 > 組織
- 1.5 > 環境報告書ガイドライン2018との対照表
- 1.6 > 編集後記 三重大学環境報告書2020の作成にあたって
- 1.7 > 作成者一覧
- 1.8 > 環境報告書の方針

2 特集

- 特集1 トピックス
- 2.1 > 大学インパクトランキング(SDG4)で国内1位タイ
- 2.2 > 上浜キャンパス内に「三重大トリムトレイル」が誕生
- 2.3 > SDGsの達成に向けた取り組み(カラーホイールバッジの配布)
- 特集2 環境座談会「三重大学と学生の『新しい生活様式』を考える」
- 2.4 > 環境座談会 イントロダクション
- 2.5 > 〃 新型コロナ禍に関する三重大学の対応
- 2.6 > 〃 オンライン授業・対面授業について
- 2.7 > 〃 アフターコロナの環境問題について

■ 特集3 環境関連受賞

- 2.8 > 大学初「エコマークアワード2019 優秀賞」受賞
- 2.9 > 環境コミュニケーション大賞(優秀賞)受賞
- 2.10 > スマートキャンパスがIPEEC省エネトップテンに選定

■ 特集4 SDGS関連活動動画(抄)

- 2.11 > SDG3 三重大学Rナビ研究室探訪
小川明子教授へインタビュー

- 2.12 > SDG3 教育コースの学生から医療従事者の方へ感謝の合唱が贈られました
- 2.13 > SDG4 教養教育院PBL言語学(国際・現代)小学校英語を科学する
- 2.14 > SDG11 三重大学で忍者学を勉強してみた・シリーズ第1回

3 環境ISO学生委員会の活動

- 3.1 > 環境ISO学生委員会の活動
- 3.2 > 環境ISO学生委員会の令和元年度のカレンダー
- 3.3 > 3R活動
- 3.4 > 緑化活動
- 3.5 > 広報活動
- 3.6 > 地域連携活動

4 サステナブル・スマートキャンパス

- 1.長期ビジョン
- 4.1 > 2030年をゴールとした持続可能な環境活動の長期ビジョン
- 4.2 > 省エネビクトグラムのデザイン公募
- 4.3 > 省エネ積立金制度
- 2.戦略
- 4.4 > 学生・教職員の環境活動の見える化「MIEUポイント」

5 環境教育

- 5.1 > 社会人・学生対応のサイレッツ育成事業
- 5.2 > 「食料・農業・農村白書」説明会
- 5.3 > 環境教育教材としての「環境報告書2019Web版のLCA」
- 5.4 > 環境内部監査の養成
- 5.5 > 三重大学SDGsシンポジウム／「サステナビリティ」を再発見する
- 5.6 > 三重大学「薬品安全取扱」講習会

6 環境研究

- 6.1 > 種の歴史から考える生物多様性の保全
- 6.2 > オーバーツーリズムでの持続可能な地域メカニズムに関する研究
- 6.3 > 安濃川を主題とした地域学習の展開
- 6.4 > 病気における遺伝子と環境の役割：小児四肢疼痛発作症

- 6.5 > 画像と映像の処理と健康や福祉への応用に関する研究
- 6.6 > 豊かな森を育む土壌生物：線虫(センチュウ)を通して森をみる
- 6.7 > 地域資源の活用を基盤とする地域企業の役割(地域における共通価値創出)に関する研究
- 6.8 持続可能な社会の構築を下支えする技術—高機能性光触媒による環境浄化法—

7 環境コミュニケーション

- 7.1 > 教職員の社会貢献活動
- 7.2 > ステークホルダー・エンゲージメント(関与・取り込み)の状況
- 7.3 > 部・サークルの環境活動①
- 7.4 > 部・サークルの環境活動②
- 7.5 > 部・サークルの環境活動③
- 7.6 > 部・サークルの環境活動④
- 7.7 > 附属学校の環境活動
- 7.8 > エコプロ2019
- 7.9 > ごみ箱リベア
- 7.10 > 三重大生協と学生教職員が取り組むTABLE FOR TWO(10周年)
- 7.11 > 教職員対象にSDGsのWeb研修を実施

8 環境関連の取り組みと評価

- 1.事業者の重要な環境課題
- 8.1 > 地球温暖化防止活動
- 8.2 > 省エネルギー体制
- 8.3 > 省エネルギー対策
- 8.4 > 自然エネルギーの利用
- 8.5 > 三重大学演習林の取り組み
- 8.6 > キャンパスグリーン作戦
- 8.7 > 環境会計

- 8.8 > マテリアルバランス
- 8.9 > 環境負荷
- 2.バリューチェーン
- 8.10 > グリーン購入・調達の方針と状況
- 8.11 > 排水量および水質
- 8.12 > 化学物質の取り扱い量
- 8.13 > 建物の建設などにあつた環境配慮
- 8.14 > ポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄物の管理


9 マネジメントシステム

- 1.リスクマネジメントの取り組み
- 9.1 > 潜在的な環境課題へのリスクの特定、評価および対応方法
- 9.2 > 安全衛生への取り組み
- 2.環境マネジメントシステムの概要
- 9.3 > 環境マネジメントシステムの概要 ガバナンス(体制図)
- 9.4 > 持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略
- 9.5 > 環境マネジメントシステムの状況
- 3.重要な環境課題の特定方法
- 9.6 > 環境影響調査・登録の手順と特定結果
- 9.7 > 環境目的・環境目標および具体的取り組みの達成度と関連するSDGs
- 9.8 > 環境目標の達成状況 経年変化比較
- 9.9 > 環境内部監査・遵守状況
- 9.10 > 環境マネジメントシステム(ISO14001)の更新審査
- 9.11 > 最高環境責任者による見直しの記録
- 9.12 > 情報の伝達・収集および共有の手段
- 9.13 > 環境活動の軌跡
～世界に誇れる環境先進大学の実現に向けて～

10 第三者評価

- 10.1 > 第三者評価 東邦ガス株式会社
- 10.2 > 第三者評価 中部電力株式会社

発行	国立大学法人 三重大学
問い合わせ先	国際環境教育研究センター／施設部施設環境チーム 〒514-8507 津市栗真町屋町1577 TEL 059-231-9223-9823 FAX 059-231-9859 E-mail contact@gecer.mie-u.ac.jp ホームページ http://www.mie-u.ac.jp/ ウェブデザイン構成：株式会社 エスト



環境報告書 Environmental Management Report 2020

2020

世界に誇れる「環境先進大学」の社会的責任(USR)を果たすために

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

THE UNIVERSITY IMPACT RANKINGS
SDG 12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION TOP 40

Rankings

Iga Hokusei Ise-Shima Higashi-Kishu

COVID-19 RESPONSE

三重大学病院



QRコードを読み込むと「環境報告書 ウェブ版」をご覧いただけます。
手軽に環境報告書をご覧いただけるようになりました。本紙では、ウェブ版の記事の中から「みなさん」「高校生」「大学生」に向けて、特に読んでいただきたい記事をピックアップしています。



みなさんに読んでほしい!!
高校生に読んでほしい!!
大学生に読んでほしい!!

コロナ禍での 新しい大学の環境を考える

三重大学は、「世界に誇れる環境先進大学・環境の文化の根付く大学」を目指して学生と教職員が連携協力し、オール三重大学の体制でさまざまな取り組み・活動を実施して来ています。しかし、令和2年当初から始まった新型コロナウイルス感染症流行のためにその活動は大きな影響を受けています。コロナ禍での環境活動には、新しい手法の導入や柔軟な発想が必要のように思います。大変な試練であることには変わりはありませんが、新しい環境活動が生み出される機会にもなると捉えたいと思います。

三重大学は、組織体として、第3期中期目標中期計画の6年間に於いてエネルギー使用量を平成27年度比で6%削減するという意欲的な達成目標を設定致しました。そして、エネルギー総合管理システムの導入、風力・太陽光の再生可能エネルギーとガスコージェネレーションによる発電、省エネ積立金制度による高効率空調や低損失LED照明等の省エネ施設の整備等、ハード面での省エネ対策を実施してきています。三重大学の各施設では、キャンパス内で発電した電気を使用するとともに余った電気は蓄電し、必要な時、例えば夏の猛暑の時期等に使用するという「スマートキャンパス事業」を展開しており、大学の使用する電気の約40%をキャンパス内での発電で賄っています。そして、エネルギー使用量削減の目標値6%に対し、令和元年度にはすでに9.5%の削減を達成いたしました。

高等教育機関である三重大学は、環境マインドを持った人材の育成、地球環境の保全・改善に資する先端研究の実施等、環境分野の教育・研究においても重要な役割を担っています。学生と教職員が協力し、環境ISO学生委員会を中心に大学キャンパス内における省エネ・節電活動だけでなく、地域の自治体や学校等と協働した環境活動、環境教育も積極的に推進しています。平成28年度からは、地域の環境を保全し、地域に多く賦存する環境価値を利活用して地域の活性化を図ることを目的とした「科学的地域環境人材 (SciLets) 育成事業」を開始し、すでに多くの企業・自治体の環境担当者、一般社会人、三重大学学生が受講し、アナリストやエキスパートの資格を取得されています。地域環境科学分野の講義、環境(技術)に関する共同研究、異分野・異業種交流を通して、地域で活躍できる優れた環境人材を育成していきたいと思ひます。また、令和元年度からは英語版ビデオ教材を作成し、マレーシアのトレンガヌ大学との協定締結、タイのチェンマイ大学工学部への技術提供を行う等、国外においてもこの取組を展開していますし、本事業に関する情報を共有し、支援していただける「連携パートナー」にはすでに県内29市町を含む141の組織にご登録をいただいております、社会におけるニーズの高さも感じています。

さらに、現在では平成27年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載をされている17のSDGs(持続可能な開発目標)を達成するための行動へと、その活動範囲を拡大しつつあります。全ての人が尊厳を持って生きることのできる「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続的な社会・地球環境を構築するための拠点となるため、学内・地域に

おける環境の文化の熟成を図っています。三重大学での学びを通して、未来を担う若者の心に環境マインドが根付くことを期待していますし、環境マインドを身につけた学生には、社会においても三重大学の環境文化を広く発信し、SDGs推進のリーダーとして活躍して頂くことを願っています。

このように、三重大学は組織体としての省エネ活動、高等教育研究期間としての環境教育・研究を積極的に実施して来てはいますが、現在のコロナ禍においては多くの学生がオンラインでの教育を余儀なくされており、キャンパス内には学生の姿はまばらです。省エネという面から見ると、キャンパス内でのエネルギー使用量は激減していますが、大学のあるべき姿ではないように思います。それぞれの志を達成するための学問、独創性豊かな研究活動、学生・教職員の元気な話し声がなくなった大学はその魅力が半減してしまいます。「環境」を、人間や生物の周囲にあって、意識や行動の面でそれらと何らかの相互作用を及ぼし合うものと考えれば、このコロナ禍の環境は改善していく必要があります。そして、コロナ禍での、あるいはコロナ禍後の教育・研究環境について考え、新しいキャンパス創りに向かっての行動を開始する必要があります。

三重大学の自然豊かなキャンパスづくりを進めていく基本となる「キャンパスマスタープラン2018」では、既存のキャンパス資産を最大限活かしつつ、それを現実的・持続的・創造的に拡大再生産する「創造的再生」の戦略を用いています。三重大学キャンパスは、豊かな木々の緑に囲まれ、伊勢湾の波の音や小鳥のさえずりが聞こえ、澄み渡った青空を仰ぎ見る環境が維持・整備されています。そして、この素晴らしい環境の中で、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究活動が活発に展開されています。環境に優しい行動が日常的に行われ、キャンパス内に足を一歩踏み入れた瞬間から環境を大切に感じる文化を感じられるキャンパスづくりを進めています。現代社会は、人工知能、IoT、ビッグデータやロボティクスの急速な発達と普及により、今まで経験したことのないスピードでパラダイムシフトが進んでいます。さらに、コロナ禍が加わった今、環境分野においても挑戦的で革新的な思考と新たな取り組みが一層必要とされているように感じます。三重大学では、自然豊かなキャンパス環境を持続すると共に、先端的な科学技術を取り入れた未来志向のキャンパスへの発展・進化を目指し、コロナ禍を克服した新しいキャンパス創りに挑戦をしていきたいと考えています。



トピックス

大学インパクトランキング(SDG4)で国内1位タイ



イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が2020年4月22日に発表した「THE大学インパクトランキング2020」において、1位タイのSDG4(質の高い教育をみんなに)をはじめ三重大学は4つのゴールにおいて国内トップ10大学にランクインしました。

上浜キャンパス内に 「三重大トリムトレイル」が誕生



令和元年9月6日(金)、大学構内に設定された散策コースである『三重大トリムトレイル』の供用開始をこぼぐため、学内の関係者や各種ステークホルダー、並びに報道陣を含めたおよそ150人によってオープニングウォークの記念式典が開催されました。

環境関連受賞

大学初 「エコマークアワード2019 優秀賞」受賞



平成23年度から学生と教職員による自主的環境活動の取り組みを見える化(ポイント化)をして行動を評価する『MIEUポイント』制度が表彰の対象となり、「エコマークアワード2019優秀賞」を受賞しました。

環境コミュニケーション大賞 (優秀賞)受賞



環境コミュニケーション大賞[環境報告書部門]環境配慮促進法特定事業者賞(優秀賞)を受賞しました。「国立大学法人の中でも、完成度が高く、Web機能をうまく活かした環境報告書である」と評価を頂き、7年連続11回目の受賞となりました。

スマートキャンパスが IPEEC省エネトップテンに選定

『省エネトップテン選考事業』の国際リストの中に、三重大学の『全学をあげたスマートキャンパス構築』が選定されました。日本から選定された4件の事例(建築部門 技術導入優秀事例)のうちで最高点を獲得しています(Score: 86.8)。

環境座談会

2020年 環境座談会

「三重大学と学生の『新しい生活様式』を考える」



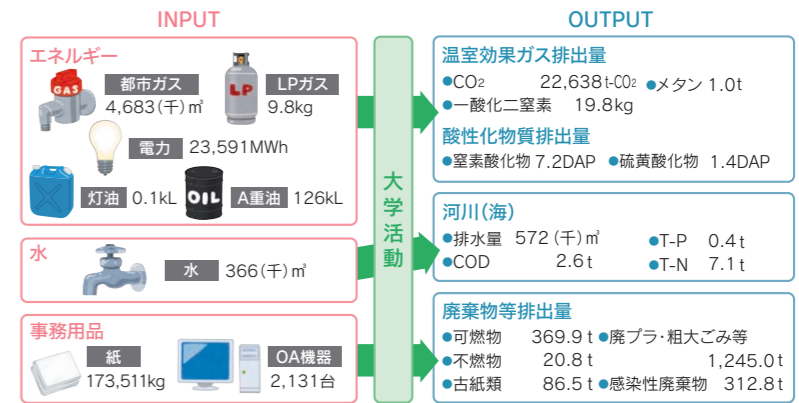
今回の座談会のテーマは、本学はもちろん、我々人類、社会全体にとって大きな脅威となっている新型コロナウイルスの問題を踏まえた「三重大学と学生の新しい生活様式を考える」としました。初の試みとなるオンラインでの座談会でしたが、新型コロナ禍による本学の対応をはじめ、オンライン・対面授業について、アフターコロナの環境問題についてなど、有意義な討論ができた座談会となりました。

※環境座談会とは…学長と環境担当理事を交え、毎年、環境に関するテーマを決めて座談会を開催しています。本学の教員・学生・地元企業の方々を交え、さまざまな議論を行っています。

環境関連の取り組みと評価

マテリアルバランス

環境負荷の削減活動を進めるために、上浜キャンパスの事業活動に使用する資源・エネルギー量を測定し、発生する環境負荷の種類・量など各種データの集計・分析を行っています。



マテリアルバランス(令和元年度実績)

※マテリアルバランスとは…事業活動で必要とされる資源・エネルギーの投入量(INPUT)と、その活動に伴って発生した製品および環境負荷物質(OUTPUT)を表したものです。

環境研究

本学の「教養教育院+5学部+1研究科」で行っている、環境およびSDGsに関する研究活動を紹介します。



種の歴史から考える生物多様性の保全



教養教育院／福田 知子(講師)

オーバーツーリズムでの持続可能な地域メカニズムに関する研究



人文学部／朝日 幸代(教授)

安濃川を主題とした地域学習の展開



教育学部／荻原 彰(教授)

病気における遺伝子と環境の役割： 小児四肢疼痛発作症



医学部・医学系研究科／小林 果(講師)

画像と映像の処理と健康や福祉への応用に関する研究



工学部／鈴木 秀智(准教授)

豊かな森を育む土壌生物： 線虫(センチュウ)を通して森をみる



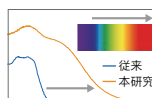
生物資源学部／北上 雄大(助教)

地域資源の活用を基盤とする地域企業の役割 (地域における共通価値創出)に関する研究



地域イノベーション学研究科／矢野 竹男(教授)

持続可能な社会の構築を下支える技術 —高機能性光触媒による環境浄化法—



工学部／勝又 英之(准教授)

環境ISO学生委員会の活動

三重大学環境ISO学生委員会は、平成18年2月21日に「MIEキャンパス宣言」を掲げ、学生の環境マインド向上を活動理念として発足し、さまざまな環境活動に取り組んでいます。



環境ISO学生委員会の令和元年度のカレンダー(抜粋)

4月 春のキッズエコフェア2019	5月 第65回町屋海岸清掃	6月 全国環境セミナー(三重大学)
7月 JUMP~日本列島を軽くしよう~	8月 放置自転車台数調査	9月 第13回環境マネジメント全国学生大会(千葉大学)
10月 第11回古本市	11月 三重大学祭	12月 みえ環境フェア2019(メッセウィング・みえ)
1月 第2回環境学習(北立誠小学校)	2月 環境コミュニケーション大賞受賞式(品川プリンスホテル)	3月 コロナウイルス感染拡大防止のため活動休止

部・サークルの環境活動

本学にあるたくさんの学生委員会や部・サークルの中から、環境保全に関する活動を行っている団体について紹介しています。

1.三重大学ESD-SDGsクラブ

私たちは在学生と留学生と共に、ESD-SDGsの達成を目指した活動として、三重県の自治体との連携によるSDGs講演会や展示会を通じた普及啓発活動、地元企業のSDGs経営講演会、伊勢湾の環境保全活動、国際学会での研究発表および国際交流活動を通じた世界の若者とのコミュニケーションおよび協働活動を通じて、ローカルとグローバルをつなぐ、グローバル活動を積極的に行っています。



日中平和友好条約締結40周年記念

2.自然環境リテラシークラブ

自然環境リテラシークラブ(NELC)は、自然環境リテラシー学を学んだ学生が結成したサークルです。私たちは三重県の自然を全力で遊ぶ、自然環境リテラシーの周知、をコンセプトに活動しています。三重県南勢エリアを活動拠点とし、シーカヤック・ハイキング・サイクリングなどさまざまなアクティビティを楽しんでいます。



三重県総合博物館での発表会(R1.12.14)



三重県南勢エリアでのシーカヤック(R1.9.4)

3.スキューバダイビングサークル

私たちはスキューバダイビングを利用した環境ボランティアを中心に活動しています。

現在、全国的に問題となっているのが「磯焼け(海の砂漠化)」です。磯焼けとは、食害などによって藻場が消滅することを言います。

磯焼けを引き起こす原因のひとつにガンガゼによる食害があります。この食害を抑えるために三重県南部を舞台に5~10月にかけて毎月4回程度、NPO法人「SEA藻」さんと合同で「ガンガゼ駆除」のボランティア活動を行っています。



ガンガゼ駆除の様子(R1.6.22)

4.三重創生ファンタジスタクラブ

私たちは「学生の学びと地方の未来を創生する」という理念で活動に取り組んでいます。紙芝居、絵地図、お寺とのコラボ企画などさまざまな切り口から地方創生に挑戦しています。通常、私たちの活動は津市美杉町にある古民家を拠点としており、昨年は何度か古民家で活動しましたが、木の一部を自分たちで薪割りし、薪として使い、環境について考えるように意識しました。また、薪を燃やす際に分別に気をつけてごみも一緒に燃やし、ごみを減らす努力をしています。



部員集合写真(R1.8.10)



薪割りの様子(R1.10.19)

トピックス

SDGsの達成に向けた取り組み
(カラーホイールバッジの配付)



持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて三重大の構成員が一丸となって取り組む姿勢を示すため、本学全構成員(役員、大学教員、附属学校教員、事務職員(非常勤を除く))約2,000人に対して「SDGsカラーホイールのマグネットバッジ」を配付しました。カラーホイールバッジの配付を受けた教職員に対しては、e-ラーニングシステムを用いた「SDGs研修」を課すことで、SDGsに関する基礎知識を補い資質向上を図っています。



大学の記事とSDGsカラーホイールバッジ

研修受講者

環境教育

社会人・学生対応のサイレッツ育成事業



サイレッツ育成事業の主な目的は、本学が、オンデマンドビデオ講義により社会人と学生の環境教育を行うことにより、地球規模の環境問題に地域から貢献し、それにより地域の持続的発展を目指すものです。またSDGsも主要な学習内容として教育・普及・啓発を行っており、最近では、SDGsの理解と実践を重視するサイレッツ受講者やSDGsの取り組みに力を入れている組織が増えてきました。



志摩市のSDGsセミナーにおけるSciLetsの取り組み紹介(R1.07.22)

「食料・農業・農村白書」説明会



農林水産省大臣官房 広報評価課 情報分析室 室長 伊佐 寛 氏を講師に招き、学生・教職員を対象に「食料・農業・農村白書」説明会を開催し60名が聴講しました。将来、公務員で農学職を希望する学生および他分野の公務員を志望する学生に、食料の安定供給の確保、農業の持続的な発展、農村の振興などについて理解と関心を深めてもらうと共に、行政施策を担う仕事の理解を深めてもらいました。



講師 伊佐 寛氏

聴講者からの質疑と応答の様子

本説明会は持続可能な開発目標(SDGs)の4「質の高い教育をみんなに」の実践と2「飢餓をゼロに」の取り組みの理解を目的として開催しました。

環境内部監査の養成



本学の環境内部監査は、環境内部監査員の資格を有する教職員ならびに、教養教育科目「環境内部監査員養成セミナー」を修了し、環境内部監査員の資格を有する一般学生が実施します。本学の教育機関である特徴を活かし、学生が本学の環境への取り組みを理解し環境活動をする機会を増やすため、積極的に参加していることが大きな特徴です。



教職員対象の環境内部監査員養成研修(R1.9.22)

教職員対象の環境内部監査員養成研修(R1.9.22)

三重大SDGsシンポジウム/
「サステナビリティ」を再発見する



SDGsシンポジウム「サステナビリティ」を再発見するー三重の歴史的・文化的営みを通してーを開催し、92名が参加しました。このシンポジウムは、三重大の「人と自然の調和・共生」、「地域に根ざし、世界へ通じる人材育成」という教育理念のもと、歴史的、地理的にも恵まれた三重県をフィールドに、SDGsをテーマとして開催しました。



イベントフライヤー

駒田学長のビデオメッセージ

サステナブル・スマートキャンパス

省エネ積立金制度



本学では、病院の診療などを含めた教育研究活動で使用するエネルギーの量(原単位)について、基準年度(平成27年度)に比して6%削減するという目標を掲げています。この目標を達成するために、限られた資金をエネルギー施策に振り向けるためのスキームとして『省エネ積立金制度』といったエネルギー改善資金を調達する仕組みを創設致しました。右の図は制度に期待される効果を表しています。



学生・教職員の環境活動の見える化
「MIEUポイント」



本学では、学生・教職員が学内で実施した環境・省エネ活動を「見える化」し、活動内容に応じたポイントを付与して獲得し貯めたポイントに応じて、希望する物品と交換できる仕組みを持ったMIEUポイントシステムを平成24年度から実施しています。MIEUポイントの「MIE」は三重大の「MIE」、「U」は「University」の意味と、「You」の意味「がんばるあなた」を表しています。

▼ 環境活動を1日した場合のMIEUポイント獲得の例

教室までエレベータを使用しない (0.025kg-CO ₂ 排出抑制)	pt.1×2回	1日の MIEUポイント 45 ポイント/日
環境講義(GECER開講授業)の履修	pt.10×1授業	
教室(50名以下)の無駄な照明の消灯 (0.33kg-CO ₂ 排出抑制)	pt.13×1回	1日の CO ₂ 削減効果 380 g-CO ₂ /日
リサイクルトレー(リ・リパック)の弁当の購入と分別	pt.10×1個	
学内で古本提供	pt.10×1冊	

- 環境活動の主なもの
- 講義室・研究室・事務所の照明の消灯/エアコンの適正運用
 - 海岸清掃活動への参加
 - 環境講義の受講や学内環境内部監査への参加 ● 3R活動・緑化活動など

三重大の活動とSDGsの関連性をCheck!!

三重大の活動とSDGsの関連性を理解してもらえるよう、環境報告書2020では掲載記事がSDGsのどのゴールに関連しているかを簡単に検索することができます。